

「カラ類最小の野鳥・ヒガラ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「カラ類」というのは、正式な鳥類の分類単位ではなく、シジュウカラ科やゴジュウカラ科に属する野鳥の総称である。「〇〇カラ」または「〇〇ガラ」とつく野鳥は、カラ類と考えて良い。「カラ」は漢字では「雀」の字を充てる。バードテーブル(野鳥の餌台)を設置すると、カラ類が一番よくやってくる。



カラ類で一番身近な野鳥は、「シジュウカラ」(四十雀)だろう。日本全国、山にも丘陵地にも市街地にも生息し、子育てもうまい。早春の繁殖期になると、「ツピーツピー」とよく通る声で鳴くので、姿は見えなくてもその存在に気付く。



こちらはゴジュウカラ科の「ゴジュウカラ」(五十雀)。くちばしが細く長く、羽色もちがうので、ほかのカラ類とは少し印象が異なる。これも時々現れる。



こちらは「ヤマガラ」(山雀)。名の通り丘陵地や山地でよく見られ、都会では稀である。人なつっこく、エサ台を設置して最初に来るのは、大抵はヤマガラだ。慣れると、手のひらからも餌をとるようになる。



これは「コガラ」(小雀)。名の通り、餌台に来る野鳥の中でも最小クラスだ。シジュウカラよりずっと小さく、胸の羽毛も全部白いので、簡単に見分けがつく。



コガラは小さいのに性格はおとなしくなく、餌のゲットも上手で、餌台での立場も強い。しかしもっと小さなカラ類もいる。それが「ヒガラ」である。